

# 縄文女子の妄想トーク

道具・アクセサリ編



20年前に縄文に出会って以来、特に北海道の縄文遺跡や遺物のPR活動に力を注ぐ縄文沼の女神様



縄文と蛙をこよなく愛する縄文女子  
オリジナル縄文グッズの販売やイベント主催などで大活躍

今回の妄想トークのメンバーは…



有名な縄文遺跡の近くに住む生粋の縄文クリエイター  
専門知識も話題も豊富で頼れる存在



北海道エリアの遺物に興味津々  
かわいいグッズにできそうなあたらしい推し土偶を常に探している

今回のテーマは縄文人の「手しごと」。土器や土偶とくらべると、道具やアクセサリってちょっと地味なイメージ？

まさか！全然そんなことないない！！今はなんでも機械で大量生産できるけど、縄文人は、自然の中で暮らしていくために、どうやって道具を考えて作りあげていったのか…、展示されている遺物から形や使い方を推理したりするのが妄想上級者の楽しみ方よ！

なにもないところから必要な道具を作り出すには、いろんな試行錯誤があったと思うけど、縄文時代の早い時期からいろいろな道具が誕生していたらいいじゃない。縄文人ってすごい発明家なのね。

確か縄文人の2大発明は「弓矢」と「土器」って言われてるのよね。弓矢なんて誰が最初に考えたのかしら。弓の部分には強くて弾力性がある枝を使ったり、弦は植物の繊維を撚るところから全部手作りだし、矢の部分だって、鳥の羽をつけて何本も作らないといけないし、すっごく大変そう！放った矢は全部回収できるわけじゃないしねえ。



矢の先端についていた「鏃（やじり）」は、たくさん出土してるから博物館では必ず展示してるけど、函館市縄文文化交流センターの展示の仕方は特に素敵なの！黒曜石やいろんな石の鏃が美しく並んでいてまさにアート。あれは映えるわ！※01

あの展示を見てなにがすごかって、みんな同じような形・大きさで美しく「規格をそろえて」作られているってこと。手作業でよ？どんな技術力な縄文人！絶対にマニュアルがあるとか（ないけど）、すごい師匠がいて弟子に伝授するとか、同じ規格で作るための仕組みがあったはず。

漁に使う「釣り針」も地味にすごくない？ちゃんと「かえし」がついていて、簡単に針が抜けないようにしているの。これ現代の釣り針も仕組みは同じだって、釣り好きの人がビックリしてた！

釣り針に模様が入っているものもあるらしいじゃない！針によ！こだわりが過ぎる。

えーっ！そんな手の込んだ針、魚に持っていかれたら相当へこむわ…。

縄文人が大切にしていたのは、効率よりも美しさ。獲物は「捕る」というより「神様からいただく」という気持ちがあるから、神様に気に入ってもらえるように、それはそれは丁寧につくるらしいの。

おいしくいただいた後は、貝塚で神様にお返しするのね。

網を使った漁もしていたのよね。網を押さえるためのおもり「石錘（せきすい）」は、漁以外にも色々使われていたみたい。住居跡の床面から石錘がたくさん出土している、通称「セキスイハウス」が垣ノ島遺跡にあるらしいわよ（笑）。

なにそれ〜！（笑）

## つまみ付きナイフ

捕った獲物の皮をはいたり解体したり、植物の採集につかった万能ナイフ。つまみ部分に紐を通して首や腰からかけていました。

※北海道埋蔵文化財センター



## 骨製スプーン

シカやクジラの骨で作られたさじは、儀式で使われたと推測されます。

※伊達市北黄金貝塚情報センター



## せきふ 石斧《石を先端につける》

堅穴住居をつくるために木を切り、地面に穴を掘るなど、日常の多くの場面で大活躍。原材料は日高のアオトラ石（緑色石）が大人気。



※木古内町いかりん館

※北海道埋蔵文化財センター

## 暮らし

## せっかん 北海道式石冠・すり皿

木の実をすりつぶしたり、肉や魚を柔らかくしたりミンチにしたり。持ち手が付いたすり石（石冠）は、北海道特有の形。

※伊達市北黄金貝塚情報センターでは、クルミをすりつぶす体験も



すり皿（石皿）

## 縫い針

骨角器でつくられた縫い針。衣服や漁網を縫う際に使ったようです。針入れも出土しています。

※洞爺湖町入江高砂貝塚館



## アスファルトの威力

当時の役割は接着剤。石鏃を矢の先に、釣り針を糸にそれぞれ固定するのに使われていました。秋田県など産地が限定されているので、交流の証としても貴重です。

土器に入ったアスファルト（写真提供：函館市教育委員会）



## 縄文ポシェット 《木の実を入れる》

青森県三内丸山遺跡では、ヒノキ科の針葉樹で編まれたポシェットがクルミとともに出土しました。

※青森県三内丸山遺跡



## 採取

## HOKKAIDO BRAND

### 黒曜石

割れ口が鋭く、石鏃やナイフ、石のドリルづくりに最適。遠軽町白滝、土土幌町、赤井川村が大産地です。遠く離れた新潟県やロシアの遺跡でも見つかっています。

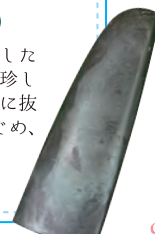
※北海道博物館



### アオトラ石（緑色岩）

当時、石斧の材料として一世を風靡したアオトラ石は、日高地方に露頭がある珍しい石。太い木に打ち込んでもスムーズに抜けて使いやすい。青森県三内丸山をはじめ、東北各地の遺跡でも出土しています。

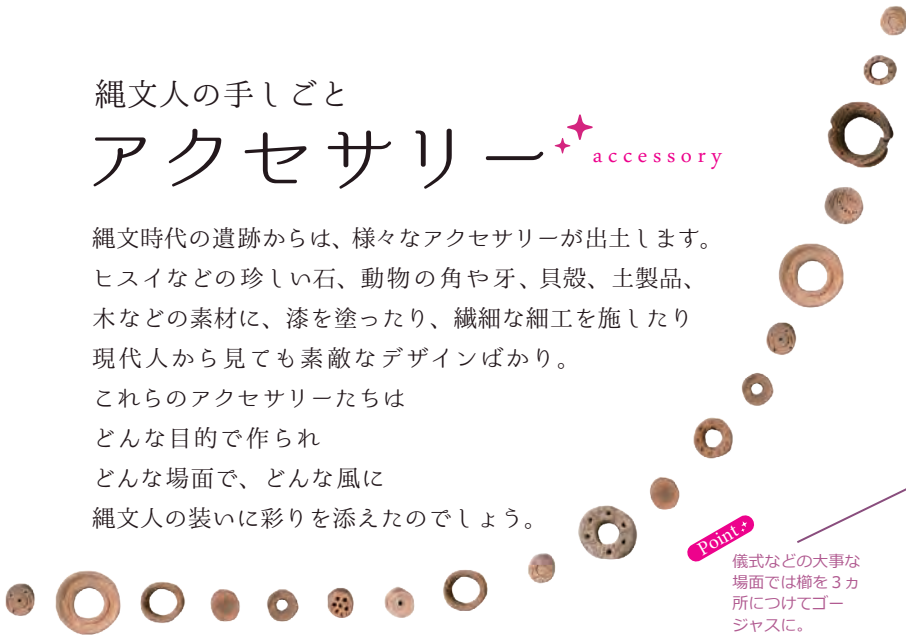
※木古内町いかりん館



縄文人の手しごと

# アクセサリー accessory

縄文時代の遺跡からは、様々なアクセサリーが出土します。ヒスイなどの珍しい石、動物の角や牙、貝殻、土製品、木などの素材に、漆を塗ったり、繊細な細工を施したり現代人から見ても素敵なデザインばかり。これらのアクセサリーたちはどんな目的で作られどんな場面で、どんな風に縄文人の装いに彩りを添えたのでしょうか。



## 漆塗りで透かしが入った櫛・耳飾り



恵庭市カリンバ遺跡などからは透かしの飾りが入った赤い漆塗りの櫛や耳輪、腕輪などが出土しています。  
※恵庭市郷土資料館  
(写真提供：恵庭市教育委員会)

## 貴重なヒスイの勾玉がついた首飾り



(写真提供：北海道埋蔵文化財センター)

写真は、美々4遺跡ほか北海道内各地で出土したヒスイ。新潟県糸魚川市周辺が原産地であり、日本海をわたって北海道と交流があったことが伺えます。

Point・

長い髪を布でまとめてすっきりと。けがをしたときや、たくさんの収穫物を包んで運ぶときなど、布を身につけているとなにかと便利。

普段の装い

ハレの装い

Point・

儀式などの大事な場面では櫛を3カ所につけてゴージャスに。髪型は3つのブロックに分けて櫛が目立つように高い位置でまとめるのがポイント！

Point・

貝でつくった平玉のネックレスをあえてプレスレットに。石製のものよりも軽く、手首が冷えないのが人気の秘密。

Point・

少しずつ大きなものに付け替えて、あこがれの大ぶりな耳飾りスタイルを目指そう。急に大きなものをつけると耳たぶがちぎれるから注意して！

Point・

狩りでしとめた鳥の羽をシンプルなペンダントに。かわいくて軽いのので普段着のワンポイントに。

Point・

森で集めた木の実や野草を入れるのにぴったり！両手があくので採取作業がはかどる機能的なデザイン。

## 耳飾り

縄文早期～晩期の約5000年にわたり使われていました。前半は石製、後半は土製で、ともに耳たぶに孔をあけるピアス。成長に合わせて大きさを変えたとも推測されています。



※北海道埋蔵文化財センター

## 縄文ポシェット

※P2参照

## 貝の平玉ネックレス・貝輪



ピノスガイを荒く割って形を整え、メノウ製の錐(きり)でひとつひとつ穴をあけて仕上げていきます。

※礼文町郷土資料館

写真提供：礼文町教育委員会 撮影：佐藤雅彦

## 布の材料

カラムシ、アカソ、オヒヨウなど樹の皮や草の繊維からアンギン編みで布を作っていきます。

※上記イラストは、縄文時代の遺跡から出土した遺物をもとに、普段の装い、ハレの装いとしてイメージしたものです。服の形状や色、模様、アクセサリーのつけ方等はあくまで想像のものであり、実際こうだったかどうかはわかりません。みなさんもいろいろ想像してみてくださいね。